

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 230 号	2020年9月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 8月29日（土）維持活動は、コロナ対応のため希望者により13名の会員が参加し、水車下流堰の整備、観察路・駐車場・対岸の除草、除去草焼却場の除草、水路の清掃作業を行いました。作業前には、更新パンフレットの構成と備品の購入（会員各自が自主的に購入して欲しいとの、会長の提案あり）の事項を協議しました。
- 9月6日（日）維持活動は、コロナ対応のため希望者により15名の会員が参加し、台風10号による強風への備え（倉庫・東屋周辺および水車流水口の補強）、駐車場の除草、除去草の焼却、ウンカ対策のための農薬散布作業を行いました。作業前には、観察隊活動日におけるコロナ対応と更新パンフレットの構成の事項を協議しました。
- 9月13日（日）親子自然観察隊は、秋の昆虫でした。運動会のために、参加できない親子もいましたが、天気も良くて、元気に昆虫を追っかけて捕まえて行きます。東屋に帰って、昆虫の同定をして、逃がしてやりました。参加は、親9名、子12名、会員15名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 9月26日（土）維持活動（草刈り、稲刈り準備）
- 10月4日（日）維持活動・稲刈り準備
- 10月17日（土）稲作体験・稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会招聘）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声—1 「令和の大水車」（内藤 武顕 記）

緑の森の彼方から、陽気な唄が聞こえます。あれは水車の回る音、耳を澄ましてお聞きなさい。コトコトコットン コトコトコットン ファミレドシドレミファ・・・ 何時の日か楽しい春がやってくる・・・ 「森の水車」の歌詞の引用です。昭和17年高峰秀子の歌唱でレコード化されるもヒットにつながらず、昭和26年NHK「ラジオ歌謡」で荒井恵子が歌い、並木路子の歌唱でもう一度レコード化され大ヒットする。懐かしい田園の原風景の歌ですネ。

緑美しい場所で回る華やかな水車もあれば、こんなところで回っていたのか？ついほろりとする地味な水車もありました。日本での水車の起源は古く、平安時代近畿地方から揚水機、動力装置として利用されていたようです。しかし、資金や技術の問題で（現在も同じ）停滞。江戸時代の後半農業の復興に伴って普及。水車小屋から聞こえてくる杵の音が農村風景ひとつとなっていた。

— ひたすらに 春呼ぶ音や 水車（みずぐるま） —

令和2年8月1日（土）、待望リニューアルされた「令和の大水車」が21世紀に向け水しぶきを上げ回転を始める。木漏れ日からかいま見る様子は長州武士の風格十分である。再建にご尽力された方々のビオトープへの愛情が結実。そして、子どもたちの楽しみもまたひとつふえました。

— 子らの目も 水車とまはり 夏来る —

20周年記念行事は「NHK合唱団」による“森の水車”の合唱、高峰秀子さん“24の瞳”の来場、並木路子さんのアップルパンチ盛り上がる。乞うご期待！

最後に、原田会長奥さまに捧げる一句
— 土手に座し 風に拭かせる 玉の汗 —

会員の声ー2「2020年度・二俣瀬小学校、課外授業・報告書」（管 哲郎 記）

8月27日（木）、9：30～11：45までとした二俣瀬小学校3年生だけの課外授業を今年も行いました。1回目は7月27日に3・4年生合同で昆虫採集をおこないましたが、今回は3年生4名だけということで、また暑い時期なので「川の探検」を行いました。

学校側より先生が2名参加される予定でしたが、直前にお怪我をされ、引率の先生は担任の玉井先生お一人でした。やむなく管が案内と補佐役を引き受け、須賀河内川半分の距離を案内しました。

ビオトープに用意されたライフジャケット、ヘルメットを着用してもらい、網と魚かごをもって出発しました。前日までは台風8号の影響で、曇ったり小雨が降ったりのお天気心配されましたが、当日は晴れ、水量も少なく問題はありません。ただし、さすがに水温が少し低く、最初だけヒヤッとしました。午前9時の気温は27℃、お昼には30℃に上がり、生徒たちは魚を掬い取ることより深場で泳ぐことに夢中になりました。

半分の距離でタイムリミット、生徒たちはもう少しおよぎたい！と帰りたくない様子でしたが、給食の時間も近くおなかもすいたようで、後ろ髪をひかれながら帰途につきました。川で泳ぐのは初めてという生徒もいましたが、ライフジャケットのおかげで問題なく川遊びが楽しめたようです。一人だけわずかなスリ傷を負いましたが、持参した消毒薬とテープで固定し、最後まで元気に遊んでくれました。それ以外は事故もなく無事課外授業を終了しました。学校に帰り、今日のことは学校新聞にするとのことでした、どんな新聞ができるか楽しみです。



川登り準備完了です



険しい溪流も無事上りました



5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫」 (管 哲郎 記)

今年の昆虫採集会は、運動会などの行事と重なり、出席できない隊員もいらっしゃいましたが、親子合わせ 20 名以上の出席があり、お天気も良くなり、にぎやかに執り行われました。

直前 2 日間は大雨で、お天気が心配されましたが、13 日当日には晴れ、支障なく昆虫採集会が開催されました。9 月に入りコロナ感染者も減り、宇部市の経営する「動物園」や「常磐公園」の入場をようやく認めるようになりましたので、私たちもそれに倣い採集会を決定いたしました。

昆虫の採集はビオトープエリア内である昭和山登り口までの往復と、ため池や湿地周辺で行いました。11 時には採集を終え、東屋で採集された昆虫の名前を調べ、逃がしてあげました。隊員たちも経験を積むと採集が上手になり、小さな網を上手に振って飛翔するオニヤンマを見事捕獲しました。隊長の目の前で出来事で、しっかりと手の動きを見ており、入会した時とは全く違う網の振り方に驚いたものです。

昨年は体にマダニを付けた隊員がいたので、今年は東屋に帰着した時、全員でダニが体に付着していないかチェックしました、幸いに大丈夫なようで安心しました。しかし、昆虫採

集の時には「長そで・長ズボン」が原則ですが、「半ズボン・半袖」で参加された隊員も見られました。これを機会に服装を見直してください。

見かける昆虫は以前に比べ少ないように感じましたが、隊員たちの収穫はなかなかのもので、思った以上の収穫でした。採集された昆虫類は以下の通りでした。

・**トンボ類**：ベニイトトンボ・アオモンイトトンボ・モノサシトンボ・ハグロトンボ・オニヤンマ・マユタテアカネ・ヒメアカネ・リスアカネ・ショウジョウトンボ・ウスバキトンボ・オオシオカラトンボ

・**チョウ類**：ヤマトシジミ・ムラサキツバメ・キタキチョウ・コムスジ・ヒメウラナミジャノメ・カラスアゲハ・ナミアゲハ・ヒメアカタテハ・クロヒカゲ

・**バッタ・キリギリス類**：ツチイナゴ・ハネナガイナゴ・オンブバッタ・ショウリョウバッタ・イボバッタ・セスジツユムシ・エンマコオロギ・コオロギの仲間（名前不明）

・**甲虫類**：コアオハナムグリ・サビキコリ、・**カマキリ類**：オオカマキリ

・**セミ類**：ツクツクボウシ、・**カゲロウの仲間**：アリジゴク（ウスバカゲロウ幼虫）

【その他の生き物】ツチガエル・ヌマガエル・ニホンアカガエル・ニホンカナヘビ・ジョロウグモ・ナガコガネグモ



受付・健康確認・消毒を行いました



昆虫採集の様子

最後に採集された
昆虫の名前を
調べました



親子自然観察隊の感想

★真野 湊

秋の生き物を自分で捕まえたり、他の人が捕まえた色々な昆虫が見られて楽しかったです。

★真野 翔

アキアカネを捕まえることができて嬉しかったです。

★真野 葵

虫はこわいけど、お姉ちゃんが手に乗せた虫を触らせてもらってドキドキしました

★渡邊 萱

オオカマキリが採れて嬉しかった。楽しかった。

★渡邊 (母)

当日の朝、ゲームをしたがって行きたくないと言っていたのですが、いざ行ってみると「ママすごく楽しいよ～」と電話がかかってきました。とても充実した表情で帰ってきました。

★秋田理莉

飛んでるトンボを捕まえることができて嬉しかった。みんなで捕まえた虫の種類がたくさんあってビックリした。

★秋田菜那

カエルがいてビックリした。捕まえてみたらかわいかった。

★森山はるか

オニヤンマを捕まえられて、とても嬉しかったです。外で虫取をする機会が少なかったので、参加できて楽しかったです。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(55) オオホシオナガバチ *Megarhyssa praececellens*

(細腰亜目 ヤドリバチ類 ヒメバチ科)

北海道～九州まで分布し初夏から夏に見られますが、見たことも聞いたこともないハチではないでしょうか。筆者も初めて山口県内で目撃し、こんなハチがいたのかと感動しました。ヤドリバチ類で木の中に棲むカミキリムシやキバチ（木蜂）の幼虫に産卵し寄生して育つ変わり種です。

体長は26mm～35mmで、♀の前翅に黒褐色の紋があり、体の模様も特徴的なのでわかりやすいのですが、なかなか見られません、翅に黒褐色の紋の無い個体もいるようです。立ち枯れた木に、いろんなカミキリムシやキバチが産卵していなければ寄ってきませんので、そんな樹木を捜すことがまず手始めです。



オオホシオナガバチ♀



7月 萩市高佐

引用・参考文献

田中義弘、2012. 狩蜂生態図鑑. 192pp. (株) 全国農村教育協会. 東京.
藤丸篤夫、2014. ハチハンドブック. 104pp. (株) 文一総合出版. 東京.

7. 会よりの連絡事項

- 1) 稲作体験・稲刈りの日時については、生育状況やウンカ被害の有無などを考慮して、予定通り10月17日に行うか、一週間前倒しにするかを、26日の活動日に協議します。

8. 編集後記 (中本 亜矢子 記)

9月に入り台風や大雨をやり過ごし、今日は9月14日です。急に朝晩が涼しくなり、エアコンがいらなくなりました。ビオトープ界隈を散策すればドングリやアケビの実に出会い、自然界は、夏から秋に変化していると感じます。

さて、このところ、宇部・山陽小野田ではコロナ患者が多数発生し、臨時休校の小学校も出ました。そんな中で9月の観察隊について会員で協議しましたが、会としてはコロナ対策をしたうえで予定通り実施する。参加の判断はそれぞれの学校の指示に従い、各自で判断していただくことに決めました。

今後の見通しは全く立ちませんが、基本的にはこのスタイルで活動を維持し、コロナ禍の中でも人との触れ合いができる場を守っていきたいと思っています。